

筆勢武者硯卷之二

一 筒井淨明つらのしやうじやうめい一末法師しつぽうし

一 鷲尾山案内しゆのそやまわんえ

一 梶原二度掛かぢのらにどのかり

一 越谷敦盛こしやのあつなり

一 船舩慶ふねぶらひ

一 河津侯野相撲かづはまきののとも

一 文覚業行ぶんかくごうぎやう

一 梶原運槽伴かぢのらうんそうばん

一 藤原守忠友ふじのらまもりちゆう

一 義經方流よしのりかたな

一 宇治川先陳うぢがわのせんちん

一 辨慶勅進帳べんけいしつしんちやう



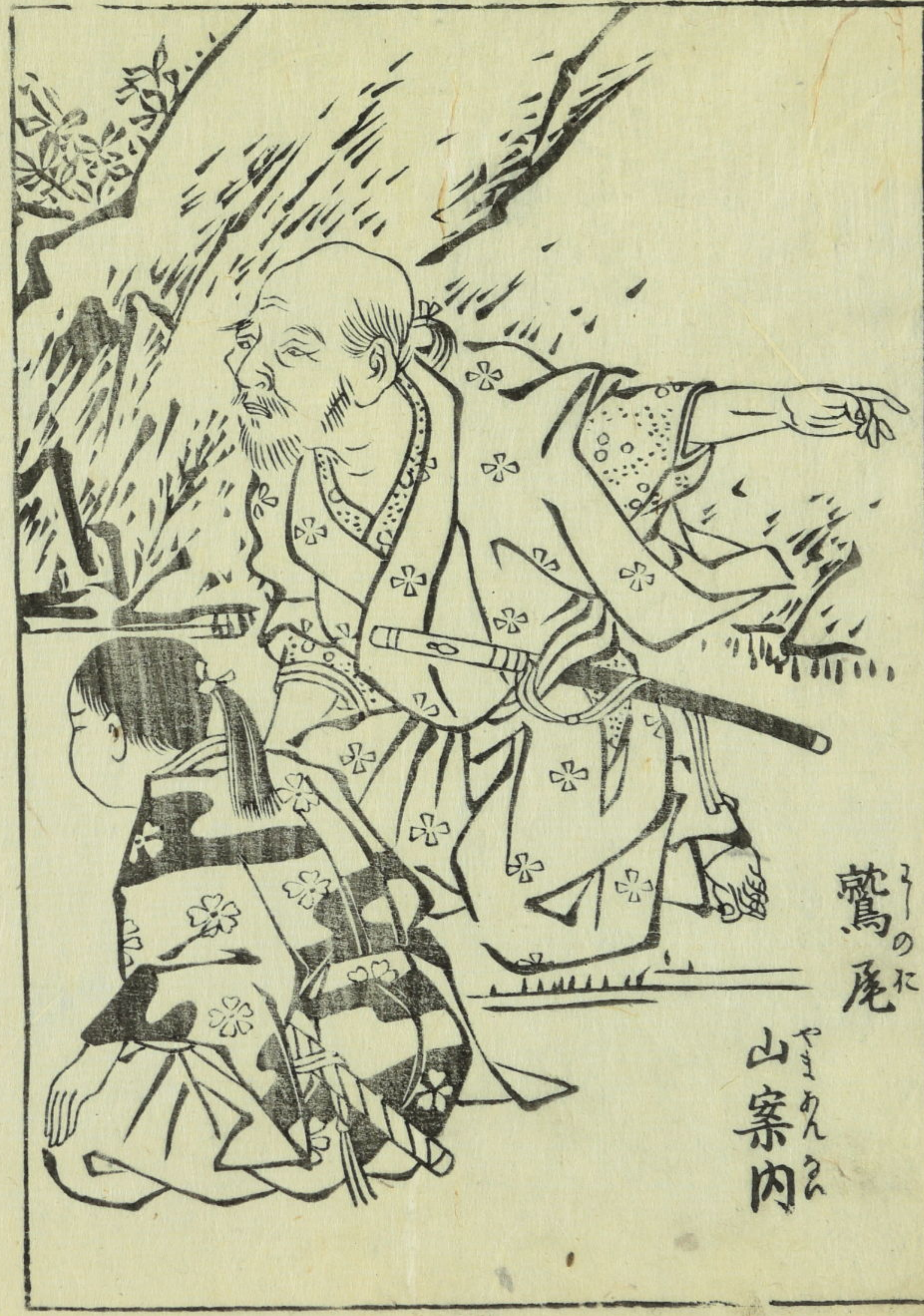
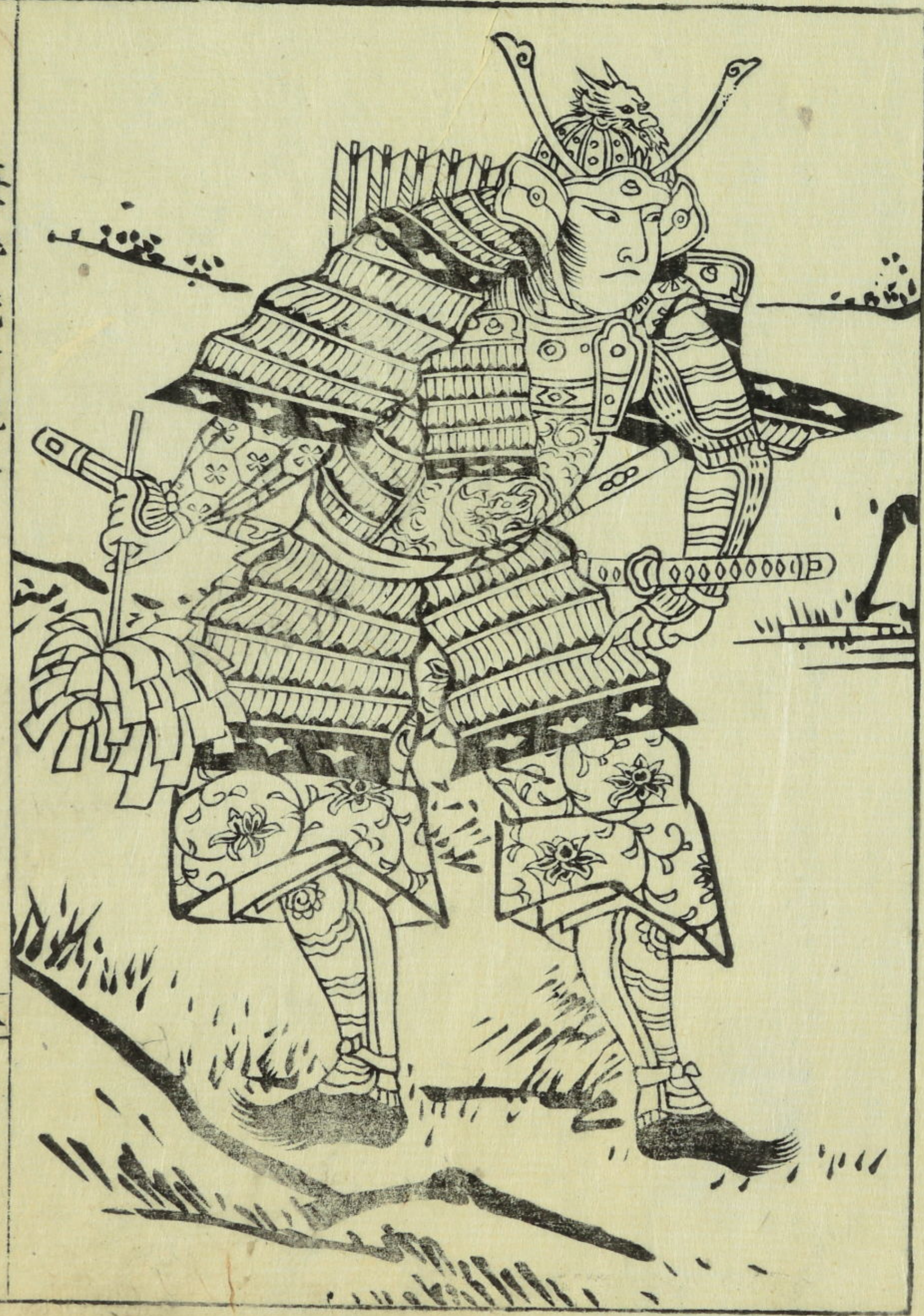
文  
覺  
法  
師



集  
卷  
之  
二



集  
卷  
之  
二



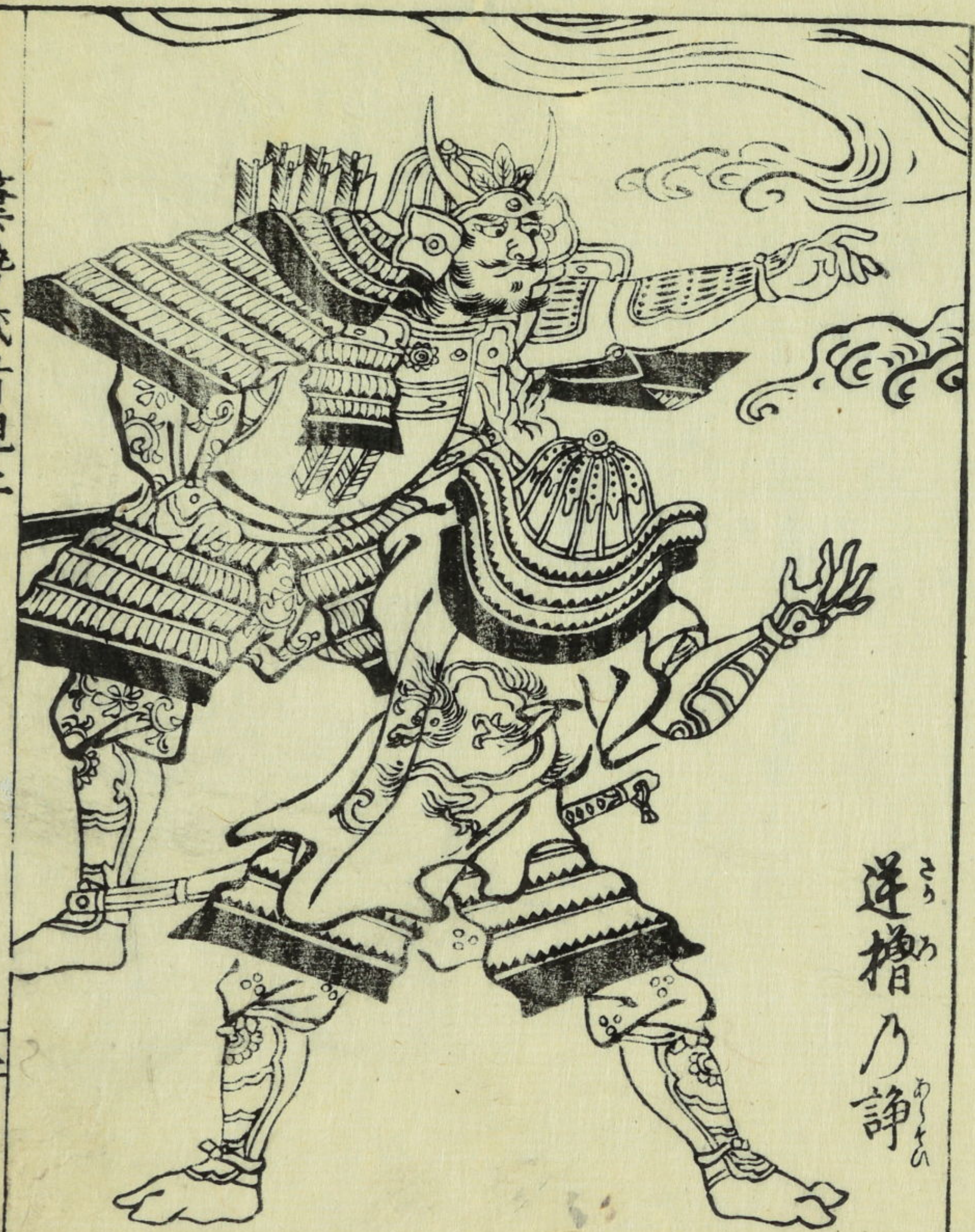
筆勢武者碓二

鷲の尻  
鷹尾

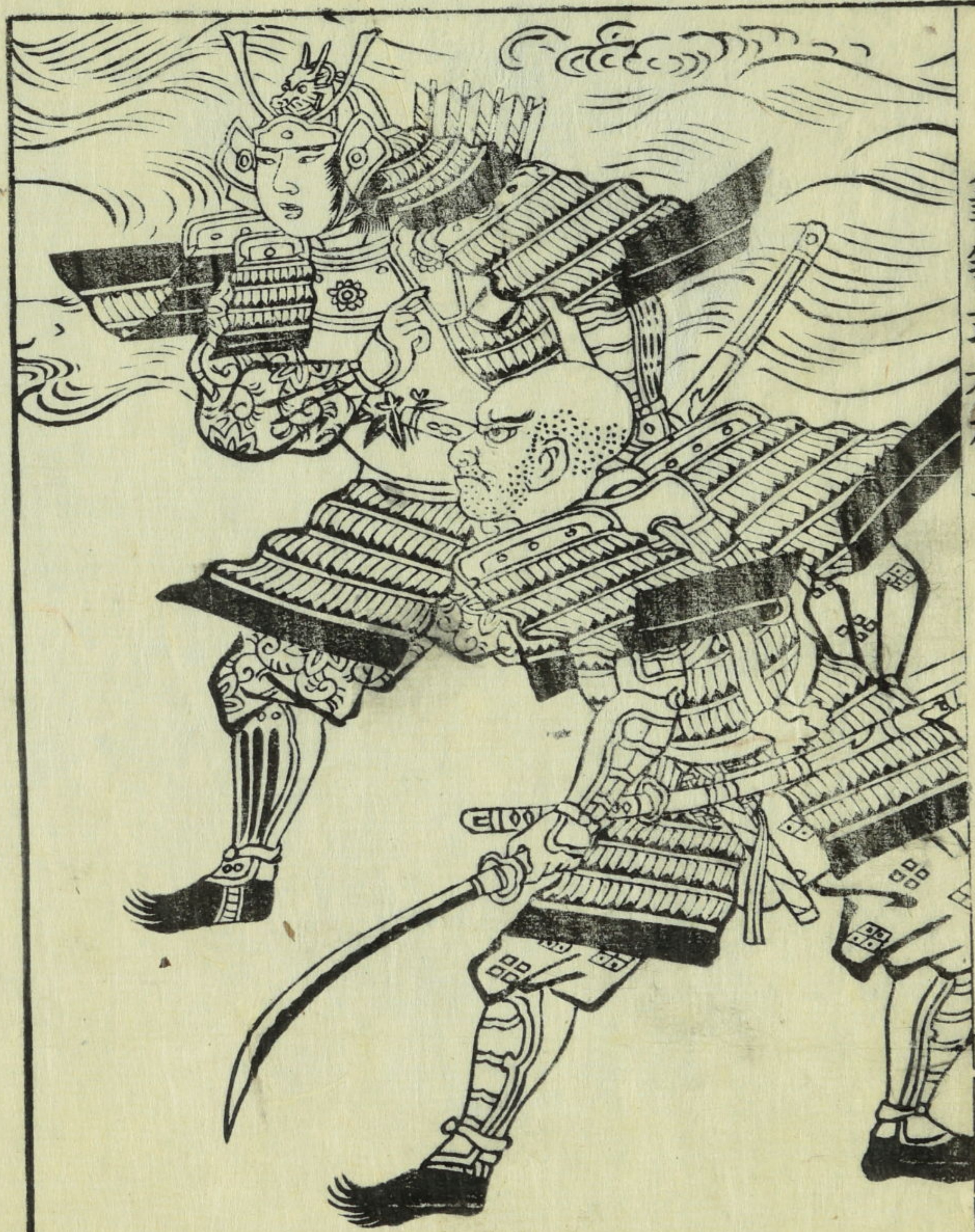
山案内

三



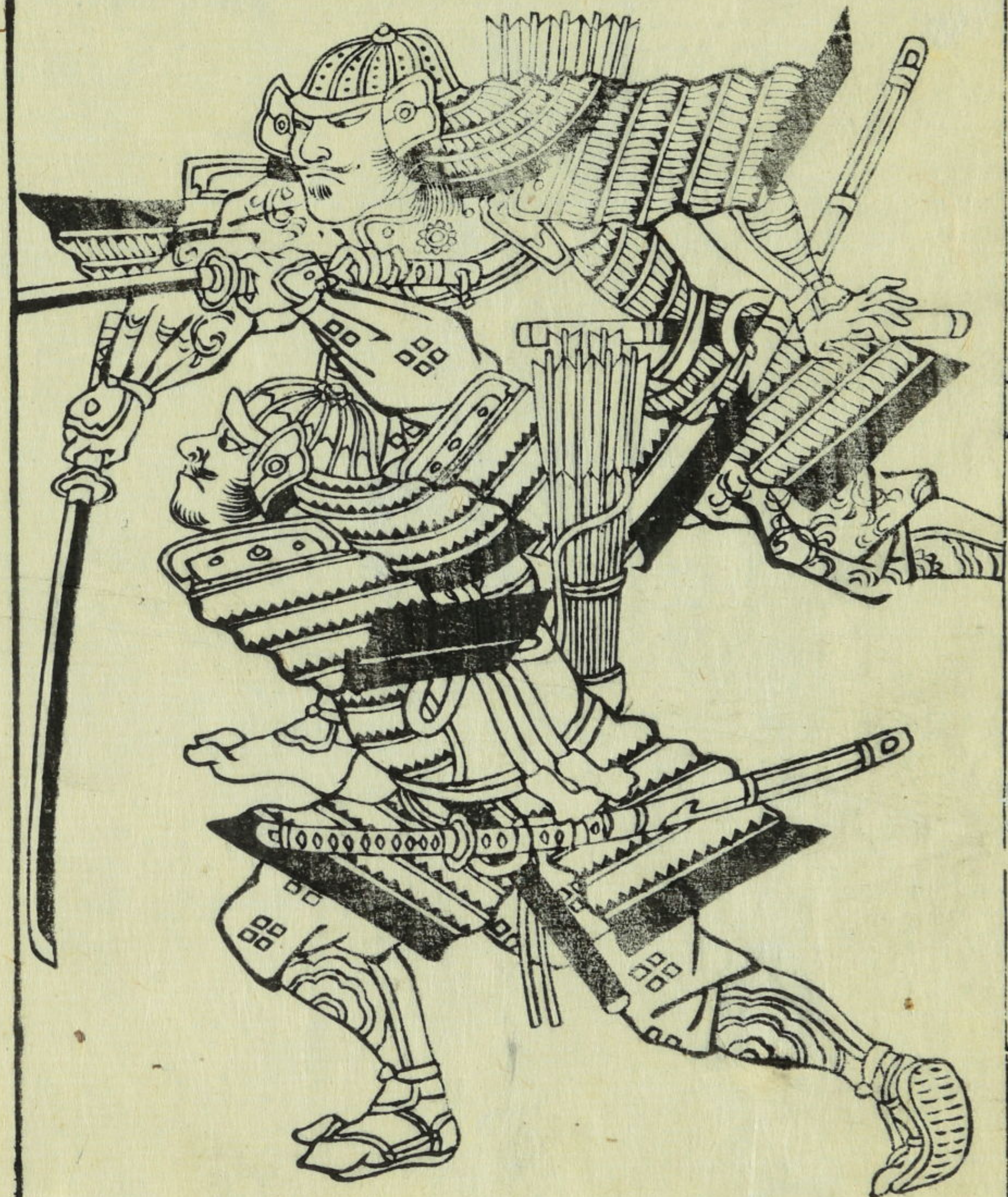


逆櫓乃諍





二ノ 梶原  
かり 度



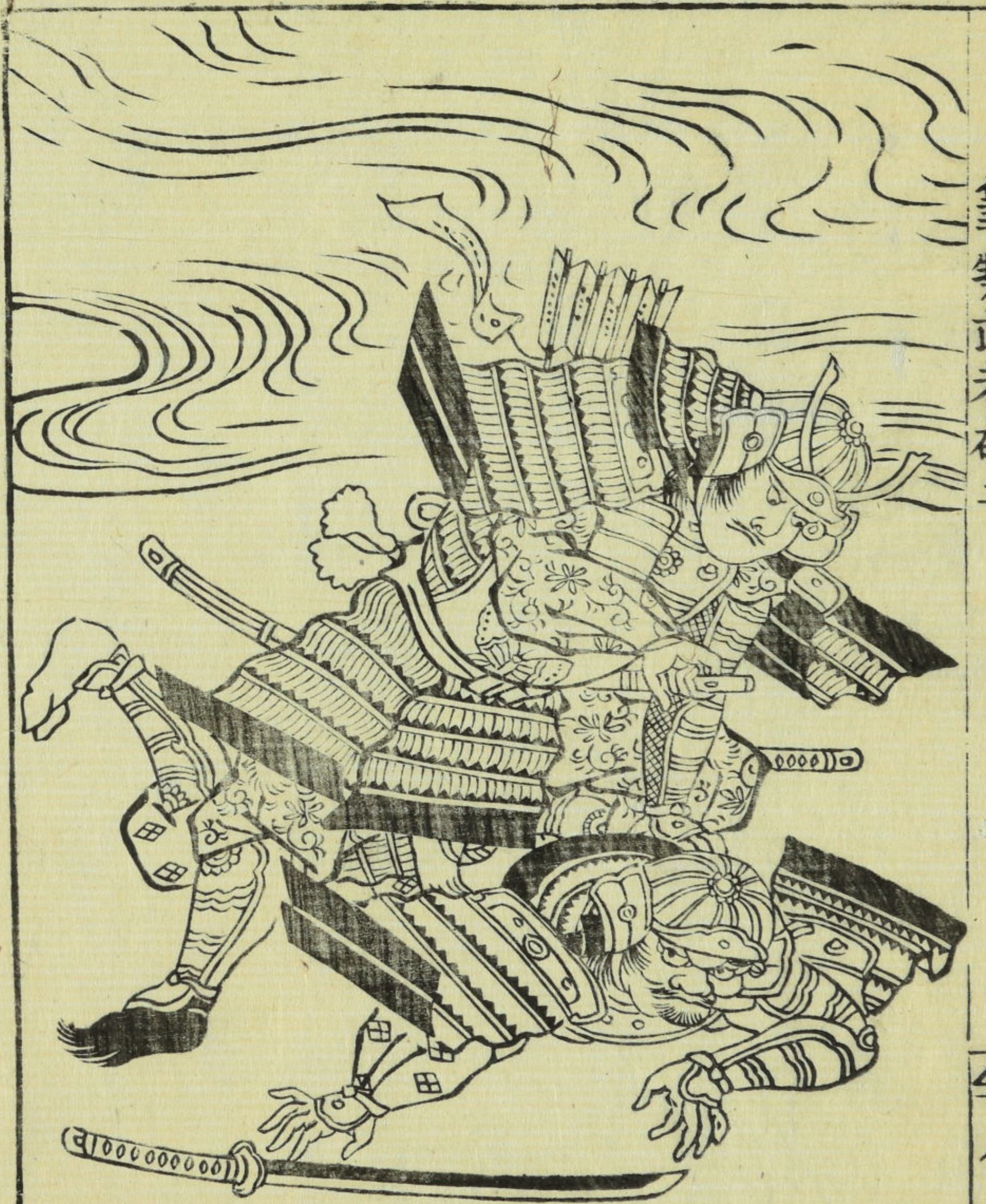






薩摩守  
 忠度

薩摩守忠度



薩摩守忠度

薩摩守忠度

敦盛



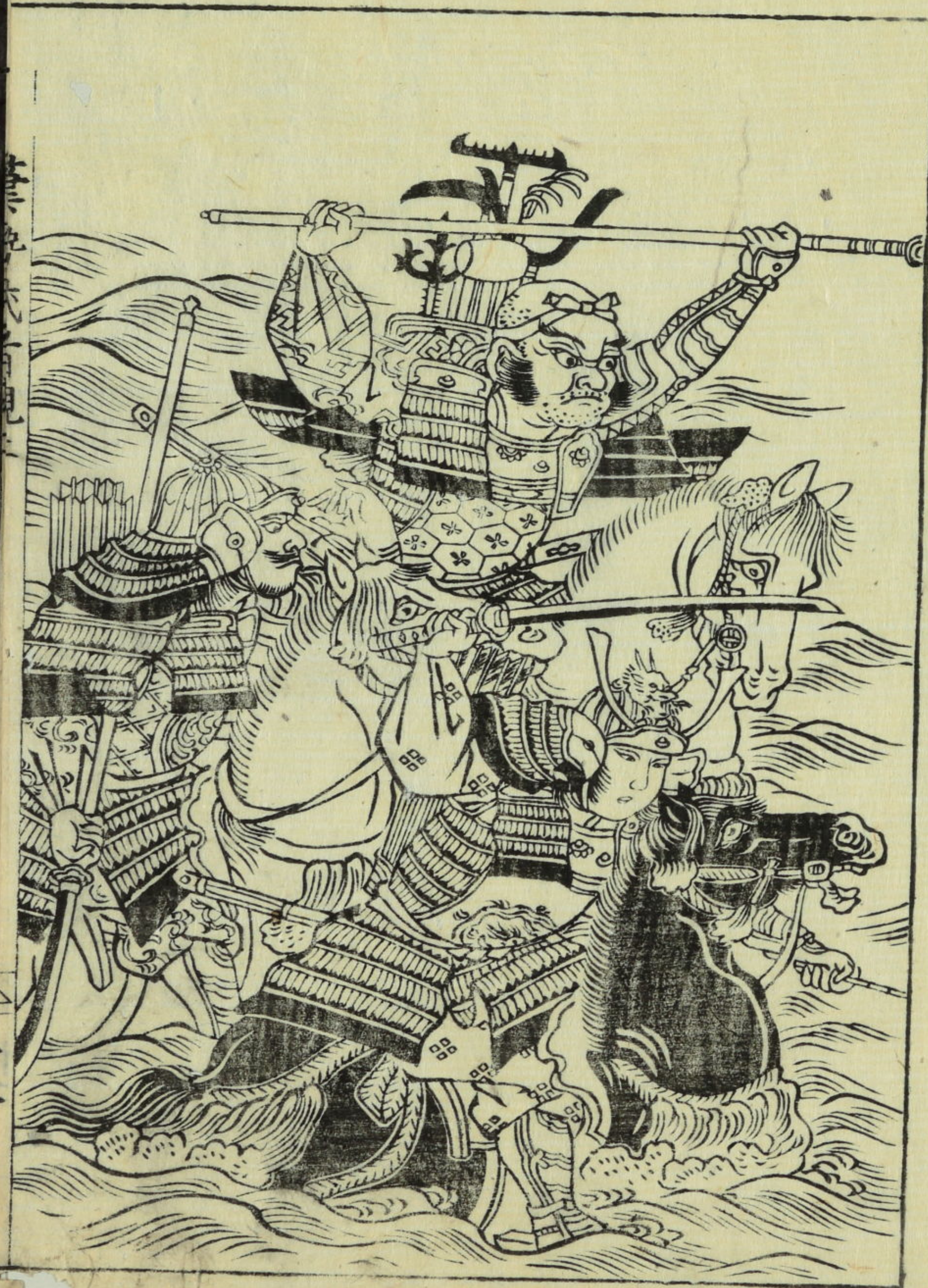
筆止者石二



熊谷

九





義経  
子流

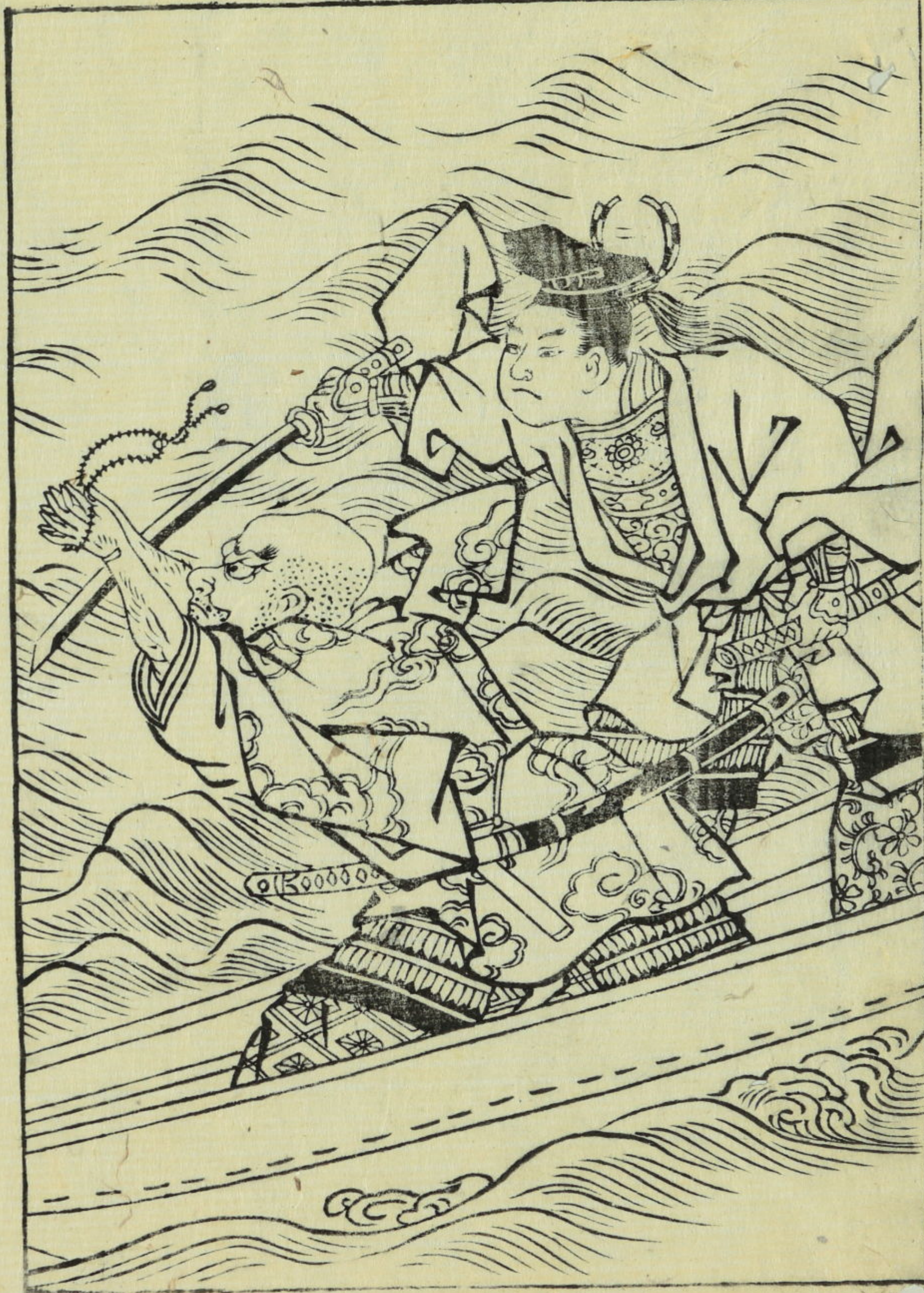
華美正者石二

舟  
慶



集丸式均規二

十三

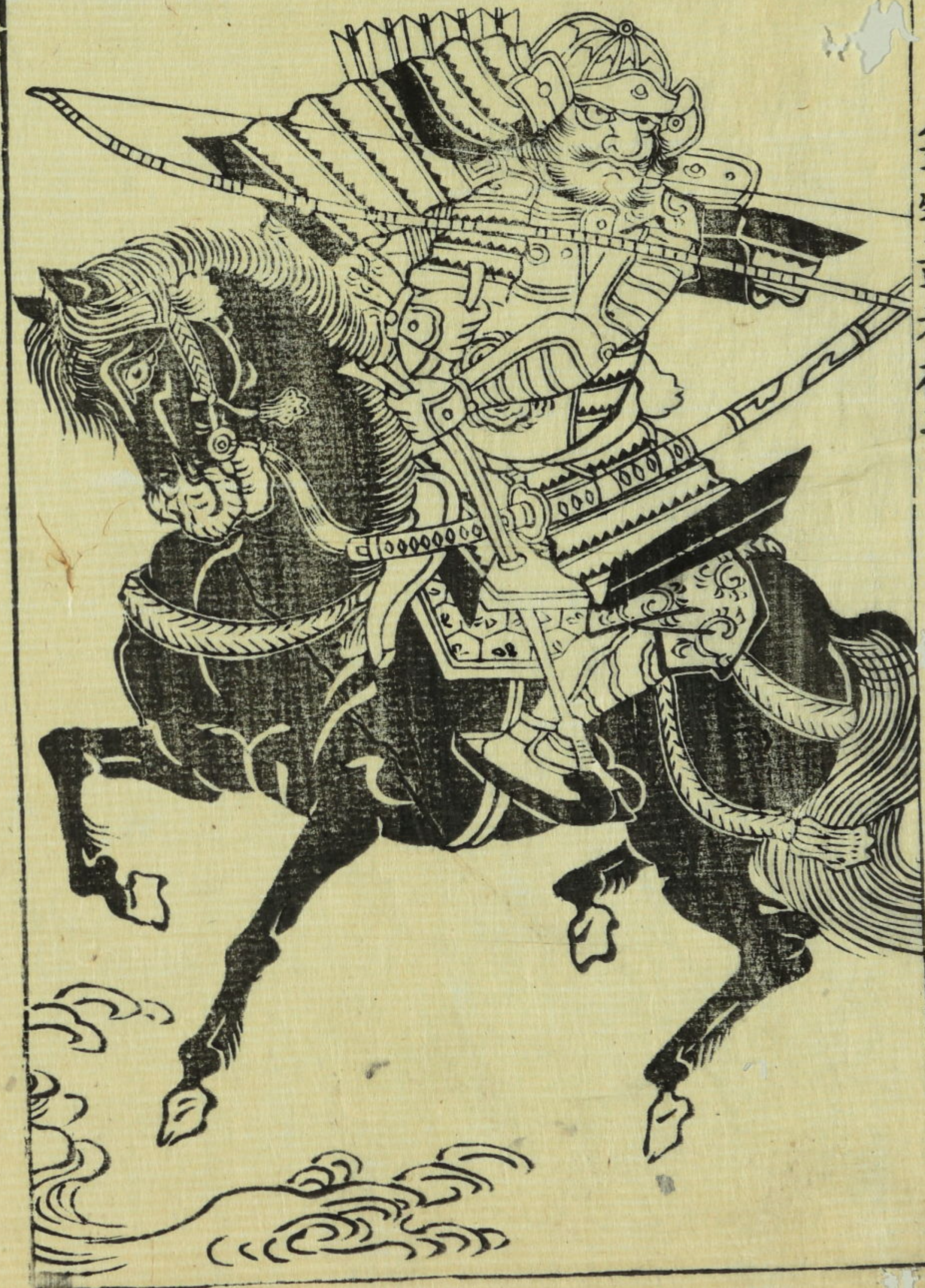
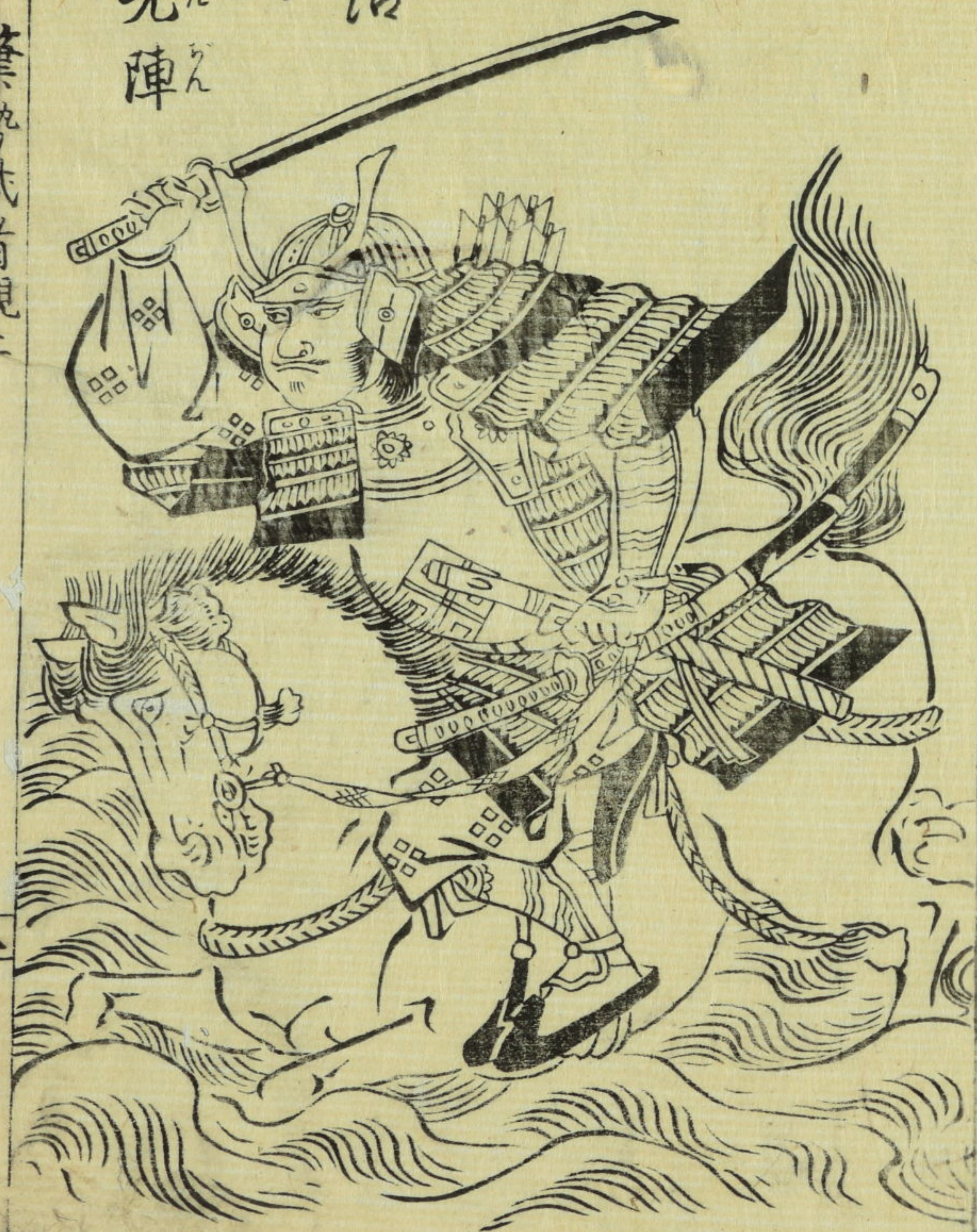


筆勢此者破二

十二



宇治 川 先陣



筆勢正者石二

十四



依本振原宇治川先陣

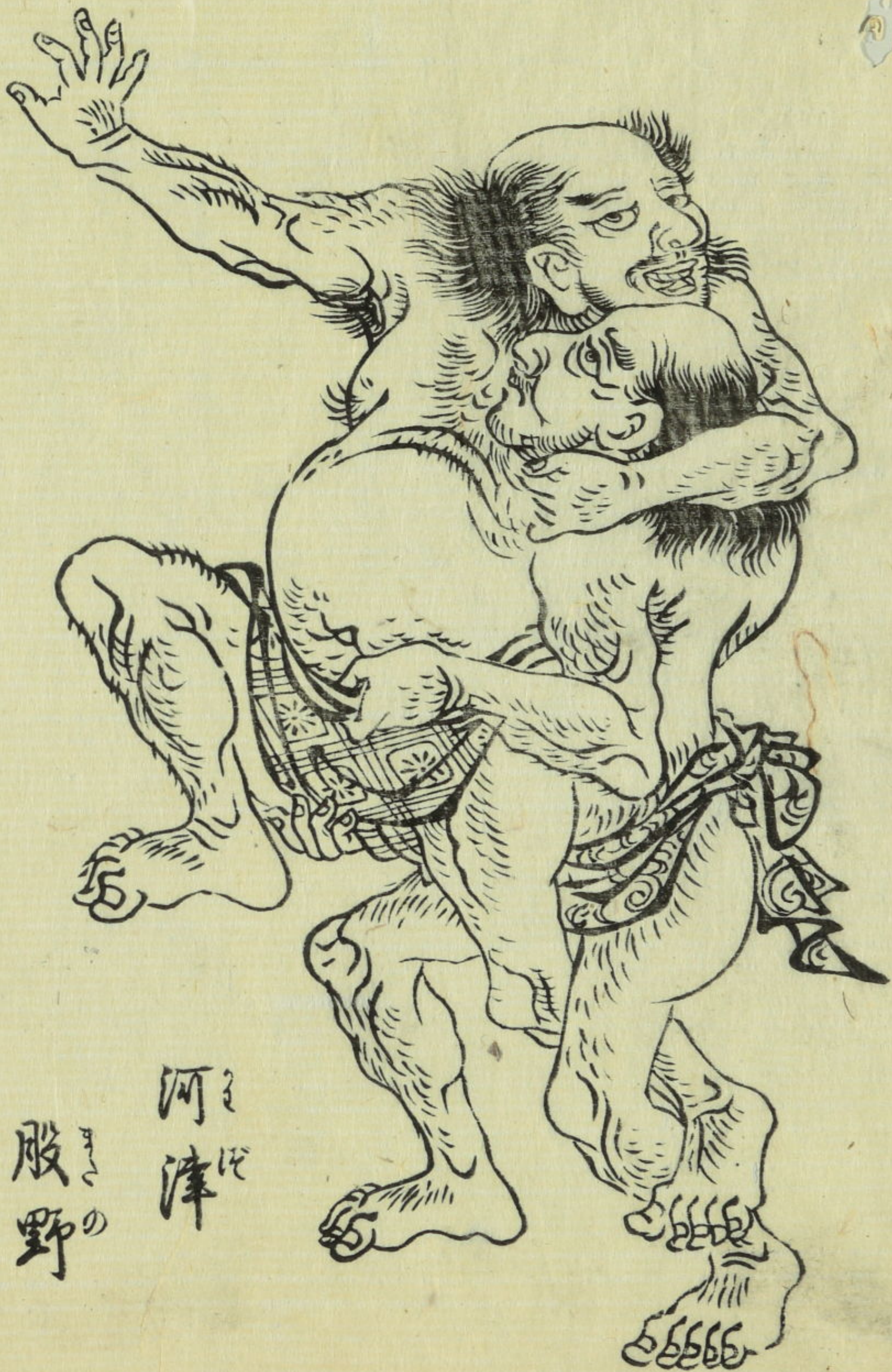
相討ハ本名長仲ノ狼藉ヲツルメんと教頼義経トシテ教万余餘引奉  
 一於を引しこのやりくる長仲世平を討てやがて宇治村田の橋川にさら  
 玉りの家あふささ宇治を纏ふ給ひけりハ我ハ川の先陣作らんをす  
 の名馬少然リ下宿屋一とわきなやがてををりれくる振原平とい中  
 を守りてんハ名より名を相討せしきけりつと心細きおれりけり  
 ともいぬぬとさりさりお主人名もふのり宇治川のまなうらと先陣を  
 陣ひるささ一十九年ぬふさうりいごう子孫を以川ハ名よま一河を  
 水とや一水底をぐるりありんまはせ殿の馬れりいじのむら志先  
 結てりハ振原むとあひおつる方のけさけふとていびとあひらる  
 みささ一もんどホのりえとや世を事しも世川名ふるり宇治川の  
 先陣さささとのけけやくとけりけりもさささ智謀うりの我

河津股野相撲

伊豆相撲の事相が作して酒家一けりつ時之紀實平尸され多  
 ハかゝか持奥メある内一長友系となふりいごまんと大庭平を  
 海老名の原といごゑ系相撲あそむせけりせんと尸されささハ  
 本間五郎資俊とてみおてぬぬ打一りたれハ僕世の年出  
 ておるをさささあ十あざりりもや相撲ハうぬとささ小のり  
 々れささささ投中ささ徳忠去出りり一が善子を入さくおれ  
 とも又は一あはけり揚しそまをささ時ハ河津ハ命祐泰共  
 て相お中もあひ一そ替りふ合切さをつさて勝さささり  
 股野をさよわりのひくれハ今一あさおでうらと河津が上帯  
 けんとくさく川もさささこれハ河津ハ足さのぞけり投中りささ  
 付さかんといさをさささ一して勝ささささより河津はさささ



初進帳



河津の股野

筆実正者破

辨慶勸進帳

於於義經 御中不和よりしを治し義經ハ奥列秀年をたのまんと  
 て山伏給ふ成て行く一通り治すや一以時島中ニ新園をまられ  
 けりおのの木の新実ハ富樫乃た集つてぞ有けり義經かくとね  
 あり治りて毎冬を先年の姿と一仔細とるが片置ゆてひさ  
 ら坊主は十二人皆同一とてさや此園毎年のしらんとせりり  
 実よりあや一わ行一さめくれはそを南都赤久寺に御進小  
 通りけりものありとありさあわ初を扱ありたりしゆな毎冬  
 とうまうくは来れをわをいざ一初進林ありこそ御座ふ舟を  
 以てまふま義經の難をよせさやとくと実をせりしとあり  
 舟々の秀少ゆふし一せんどと

